

2020. 4. 12

# 復活日



# 復活日礼拝

4月12日(日) 前 11.00

奏 楽

「喜び歌え、わが心よ」 H.ペーター

大 東 敬 子 姉

招 詞

ヨハネによる福音書 11章25節

讃 美 歌

18 (1~3節)

主の祈り

93 (5A)

交読詩編

16

信仰告白

(日本基督教団信仰告白)

讃 美 歌

28

祈 禱

聖 書

イザヤ書61の1

ヨハネによる福音書20の19~23

讃 美 歌

327

説 教

「ゆるし、ゆるされ」

佐 藤 栄 一 牧 師

祈 禱

讃 美 歌

333 (1、2、4節)

~~洗 礼 式~~

~~( 67 ) 1、4節のみ~~

~~幼 児 洗 礼 式~~

~~( 68 ) 1、2節のみ~~

~~聖 餐 式~~

~~( 311 ) 1~5節のみ~~

讃 美 歌

290

献 金

讃 美 歌

27

祝 禱

報 告

誠に残念ですが、  
次回聖霊降臨日を  
期して！

~~※ 礼拝後、記念写真の撮影がありますので、どうぞお残りください。~~

礼拝 讚美・感謝  
「心を高くあげよ！」

"Lift up your hearts!" we lift them, Lord, to Thee  
詞：Henry M. Butler, 1833—1918

SURSUM CORDA  
曲：Alfred M. Smith, 1879—1971

1 「こころをたかくあげよ！」 主のみこえにしたがい、た  
2 きりのようなうれいも、やみのようなおそれも、み  
3 主からうけたすべてを、ふたたび主にささげて、き  
4 おわりの日がきたなら、さばきのぞをみあげて、わ

だ主のみをみあげて、こころをたかくあげよう。  
 ▶ なうしろになげすて、こころをたかくあげよう。  
 よきみ名をほめつつ、こころをたかくあげよう。  
 ▶ がちからのかぎり、こころをたかくあげよう。

(♩=63)

- 1 「こころを高くあげよ！」  
主のみ声にしたがい、  
ただ主のみを見あげて、  
こころを高くあげよう。
- 3 主から受けたすべてを、  
ふたたび主にささげて、  
きよきみ名をほめつつ、  
こころを高くあげよう。

- 2 霧のようなうれいも、  
やみのような恐れも、  
みなうしろに投げすて、  
こころを高くあげよう。

ア-メン。

主しゆの祈いのり

天てんにまします われらの父ちちよ。

ねがわくは 御名みなを あがめさせたまえ。

御国みくにを きたらせたまえ。

御心みこころの 天てんになるごとく 地ちにも なされたまえ。

われらの 日用にちようの 糧かてを きようも 与あたえたまえ。

われらに 罪つみを 犯おかす者を、われらが 赦ゆるすごとく、

われらの 罪つみをも 赦ゆるしたまえ。

われらを 試こころみに あわせず、悪あくより 救すくい出したまえ。

国くにと ちからと 榮さかえとは、限かぎりなく 汝なんじのものなればなり。

アーメン

神よ、守ってください

あなたを避けどころとするわたしを。

主に申します。

「あなたはわたしの主。

あなたのほかにわたしの幸いはありません。」

この地の聖なる人々

わたしの愛する尊い人々に申します。

「ほかの神の後を追う者には苦しみが加わる。

わたしは血を注ぐ彼らの祭りを行わず

彼らの神の名を唇に上らせません。」

主はわたしに与えられた分、わたしの杯。

主はわたしの運命を支える方。

測り縄は麗しい地を示し

わたしは輝かしい嗣業を受けました。

わたしは主をたたえます。

主はわたしの思いを励まし

わたしの心を夜ごと論してください。

わたしは絶えず主に相對しています。

主は右にいます

わたしは揺らぐことがありません。

わたしの心は喜び、魂は躍ります。

からだは安心して憩います。

あなたはわたしの魂を陰府に渡すことなく

あなたの慈しみに生きる者に墓穴を見させず

命の道を教えてください。

わたしは御顔を仰いで満ち足り、喜び祝い

右の御手から永遠の喜びをいただきます。

## 日本基督教団信仰告白

我らは信じかつ告白す。

旧新約聖書は、神の靈感によりて成り、キリストを証し、福音の真理を示し、教会の拠るべき唯一の正典なり。されば聖書は聖霊によりて、神につき、救いにつきて、全き知識を我らに与うる神の言にして、信仰と生活との誤りなき規範なり。

主イエス・キリストによりて啓示せられ、聖書において証せらるる唯一の神は、父・子・聖霊なる、三位一体の神にいたしましたもつ。御子は我ら罪人の救いのために人と成り、十字架にかかり、ひとたび己を全き犠牲として神にささげ、我らの贖いとなりたまえり。

神は恵みをもて我らを選び、ただキリストを信する信仰により、我らの罪を赦して義としたもつ。

この変らざる恵みのうちに、聖霊は我らを潔めて義の果を結ばしめ、その御業を成就したもつ。

教会は主キリストの体からだにして、恵みにより召されたる者の集つどいなり。教会は公おおやけの礼拝らいはいを守り、福音を正しく宣のべ伝え、バプテスマと主の晩餐ばんさんとの聖礼典とを執り行い、愛のわざに励みつつ、主の再び来たりたもうを待ち望む。

我らはかく信じ、代々の聖徒と共に、使徒信条を告白す。

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖靈によりてやどり、処女マリアより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府よみにくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に坐ざしたまえり。かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審さばきたまわん。

我は聖靈を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体からだのよみがえり、永遠とこしえの生命いのちを信ず。  
アーメン。



礼拝 頌栄  
み栄えあれや

GLORIA PATRI  
曲：Charles Meinecke, 1782—1850

み さ か え あ れ や、 ち ち と 子 と せ い れ い に、 は

じ め も い ま も と わ に か わ ら ず、 み か み に アーメン、アーメン。

(♩=54)

<sup>さ</sup>か <sup>ち</sup>ち <sup>こ</sup>こ <sup>せい</sup>れい  
み栄えあれや、父と子と聖霊に、  
<sup>い</sup>ま  
はじめも今も とわにかかわらず、  
<sup>か</sup>み  
み神に アーメン、アーメン。

礼拝 頌栄  
父・子・聖霊の

<sup>ち</sup>ち <sup>こ</sup>こ <sup>せい</sup>れい <sup>し</sup>し  
父・子・聖霊のひとりの主よ、  
<sup>さ</sup>か <sup>ち</sup>ち <sup>し</sup>し  
栄えと力はただ主にあれ、  
とこしえまで。  
アーメン。

主はわたしに油を注ぎ

主なる神の霊がわたしをとらえた。

わたしを遣わして

貧しい人に良い知らせを伝えさせるために。

打ち砕かれた心を包み

捕らわれ人には自由を

つながれている人には解放を告知させるために。

(イザヤ書 61章 1節)

19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子た

ちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に

鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に

立ち、「あなたがたに平和があるように」と言わ

れた。

20 そう言つて、手とわき腹とをお見せになった。弟

子たちは、主を見て喜んだ。

21 イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和が

あるように。父がわたしをお遣わしになったよう

に、わたしもあなたがたを遣わす。」

22 そう言つてから、彼らに息を吹きかけて言われ

た。「聖霊を受けなさい。23 だれの罪でも、あな

たがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪で

も、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま

残る。」

(ヨハネによる福音書 20章 19 ～ 23節)

Mfurahini, halleluya  
詞：Bernhard Kyamanywa, 1938—MFURAHINI, HALELUYA  
曲：タンザニア民謡

1 主のふつかつ、ハレルヤ。ほめうたえ、ハレルヤ。  
 2 はかふさぐいわさえみっかめにのけられ、  
 3 はかにたつてんしが、よろこびをしらせる。  
 4 「さあいて、このしらせをでしたちにつげなさい。」

はかも死もうれいもうちやぶる主イエスよ。  
 ▶ 死をこえていのちへ、主はしゅうりおさめた。▶  
 「おそれるな。主イエスは、ここにはおられな  
 ▶ 主はふつかつなされた。われらはすくわれた。」▶

死のとげさえほろほし、ひとのつみをあがなう、  
 ▶ 死のとげさえほろほし、ひとのつみをあがなう、  
 主をつつんだころもが、まるめられ、あがなう、  
 ▶ 死のとげさえほろほし、ひとのつみをあがなう、

1~4 主のふっ かつ、ハレル ヤ。 うたご え はハレル ヤ。

(♩ = 132)

- 1 主<sup>しゅ</sup>の復活<sup>ふっかつ</sup>、ハレルヤ。ほめうたえ、ハレルヤ。  
 墓<sup>はか</sup>も死<sup>し</sup>も憂<sup>うれ</sup>いも 打<sup>うち</sup>ち破<sup>やぶ</sup>る主<sup>しゅ</sup>イエスよ。  
 死<sup>し</sup>のとげさえ滅<sup>ほろ</sup>ぼし、人<sup>ひと</sup>の罪<sup>つみ</sup>をあがなう、  
 主<sup>しゅ</sup>の復活<sup>ふっかつ</sup>、ハレルヤ。歌<sup>うた</sup>声<sup>ごえ</sup>は ハレルヤ。

- 2 墓<sup>はか</sup>ふさぐ岩<sup>いわ</sup>さえ 三<sup>みつ</sup>日<sup>か</sup>目<sup>め</sup>にのけられ、  
 死<sup>し</sup>を越<sup>こ</sup>えて命<sup>いのち</sup>へ、主<sup>しゅ</sup>は勝<sup>しょう</sup>利<sup>り</sup>おさめた。  
 死<sup>し</sup>のとげさえ滅<sup>ほろ</sup>ぼし、人<sup>ひと</sup>の罪<sup>つみ</sup>をあがなう、  
 主<sup>しゅ</sup>の復活<sup>ふっかつ</sup>、ハレルヤ。歌<sup>うた</sup>声<sup>ごえ</sup>は ハレルヤ。

- 3 墓<sup>はか</sup>に立<sup>た</sup>つ天<sup>てん</sup>使<sup>し</sup>が、喜<sup>よろこ</sup>びを知らせる。  
 「おそれるな。主<sup>しゅ</sup>イエスは ここにはおられない。  
 主<sup>しゅ</sup>を包<sup>つつ</sup>んだ衣<sup>ころも</sup>が まるめられているだけ」。  
 主<sup>しゅ</sup>の復活<sup>ふっかつ</sup>、ハレルヤ。歌<sup>うた</sup>声<sup>ごえ</sup>は ハレルヤ。

- 4 「さ<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>行<sup>い</sup>って、この知<sup>し</sup>らせを 弟<sup>でし</sup>子<sup>し</sup>たち<sup>ち</sup>に告<sup>つ</sup>げなさい。  
 主<sup>しゅ</sup>は復活<sup>ふっかつ</sup>なされた。われらは救<sup>すく</sup>われた」。  
 死<sup>し</sup>のとげさえ滅<sup>ほろ</sup>ぼし、人<sup>ひと</sup>の罪<sup>つみ</sup>をあがなう、  
 主<sup>しゅ</sup>の復活<sup>ふっかつ</sup>、ハレルヤ。歌<sup>うた</sup>声<sup>ごえ</sup>は ハレルヤ。

ア-メン。

## おどり出る姿で

I danced in the morning  
 詞：Sydney Carter, 1915—

LORD OF THE DANCE  
 曲：シューカーの旋律、19世紀

1 おどり であるがたで 主 イエスは、かみ がすべて つく られた日も、  
 2 あみ を つくろうべと 口 たちは、すべ てすてて イエス にしたがいで、  
 3 きよ い あんそくびに 主 イエスは、ある け ないひとた ちあがらせ、  
 4 くら い くもがひかり を とざし、かみ の み子がくぎ づけられて、  
 5 おも い はかいしをも け やぶり あさ の ひかり たり かがやいて、

かい ば おけにうまれ たよるも、 よ ろ こび を つげ た。  
 > ねた む がくしゃの目を しりぞけ、 主 のでしに なった。  
 > りっぼう やぶるとせめ られても、 み こころに 生きた。  
 > あく が ちからをふる うなかも、 み わぎはす すんだ。  
 おどりの主イエスはよ み がえり、 は つ ほと な られた。

(くりかえし)

お ど れ 輪 になつて、 リードする 主と ともに

ふくいんのよろこびへとまねかされたものはみな。

(♩=96)

1 おどり出<sup>で</sup>る姿<sup>すがた</sup>で 主<sup>しゅ</sup>イエスは、  
 神<sup>かみ</sup>がすべて 造<sup>つく</sup>られた日<sup>ひ</sup>も、  
 かいばおけ<sup>う</sup>に生<sup>よる</sup>まれた夜<sup>よる</sup>も、  
 よろこびを告<sup>つ</sup>げた。

(くりかえし)

おどれ輪<sup>わ</sup>になっ<sup>て</sup>、  
 リードする主<sup>しゅ</sup>とともに  
 福音<sup>ふくいん</sup>の喜<sup>よろこ</sup>びへと  
 招<sup>まね</sup>かれた者<sup>もの</sup>はみな。

2 網<sup>あみ</sup>をつくろう ペトロたちは、  
 すべて捨<sup>す</sup>てて イエスに<sup>したが</sup>従<sup>したが</sup>い、  
 ねたむ学<sup>がく</sup>者の<sup>め</sup> 目をしりぞけ、  
 主<sup>しゅ</sup>の弟<sup>でし</sup>子<sup>し</sup>になっ<sup>た</sup>。

3 きよい安息<sup>あんそく</sup>日<sup>び</sup>に 主<sup>しゅ</sup>イエスは、  
 歩<sup>ある</sup>けな<sup>ひ</sup>い人<sup>ひと</sup> 立<sup>た</sup>ち上<sup>あ</sup>がらせ、  
 律<sup>りつ</sup>法<sup>ぽう</sup>やぶると責<sup>せ</sup>められても、  
 みこころに生<sup>い</sup>きた。

4 暗<sup>くら</sup>い雲<sup>くも</sup>が光<sup>ひかり</sup>をとざし、  
 神<sup>かみ</sup>のみ子<sup>こ</sup>が釘<sup>くき</sup>づけられて  
 悪<sup>あく</sup>がちからをふるうなかも、  
 みわざはすすんだ。

5 重<sup>おも</sup>い墓<sup>はかいし</sup>石<sup>いし</sup>をもけやぶり  
 朝<sup>あさ</sup>のひかり照<sup>て</sup>りかがやいて、  
 おどりの主<sup>しゅ</sup>イエスはよみがえり、  
 初<sup>はつ</sup>穂<sup>ほ</sup>となられた。

## すべての民よ、よろこべ

Lift your glad voices in triumph on high  
詞：Henry Ware, Jr., 1794—1843RESURRECTION  
曲：作曲家不詳

すべてのたみよ、よろこべ、主イエスは死にかちませば

よみのちからはやうせて、ひとのいのちかぎりなし。

(♩=116)

- 1 すべての<sup>たみ</sup>民よ、よろこべ、  
主<sup>しゅ</sup>イエスは死に<sup>か</sup>勝ちませば  
陰<sup>よみ</sup>府のちから はや<sup>う</sup>失せて、  
ひとのいのち かぎりなし。

- 2 明日<sup>あす</sup>をも知らぬ 世<sup>よ</sup>に住み、  
涙<sup>なみだ</sup>の谷<sup>たに</sup> たどる<sup>み</sup>身の  
悲<sup>かな</sup>しみも 悩<sup>なや</sup>みも消え  
今<sup>いま</sup>は喜<sup>よろこ</sup>びにあふる。

- 3 主<sup>しゅ</sup>は栄<sup>えい</sup>光<sup>こう</sup>の御<sup>み</sup>座<sup>ざ</sup>につき、  
みつかいらはほめ<sup>うた</sup>歌う、  
「主<sup>しゅ</sup>イエス死<sup>し</sup>に<sup>か</sup>勝ちたまえば、  
人<sup>ひと</sup>は生<sup>い</sup>くる とこしえに」。

ア-メン。

礼拝 頌栄  
父・子・聖霊の

ORTONVILLE  
曲 : Thomas Hastings, 1784-1872

ち ち・子・せい れいの ひとりの 主よ -、さ かえと ち

からは た-だ 主に あれ -、と-こ しえま で -。

(♩=108)

アーメン。

ちち こと せいれい  
父と子と聖霊のひとりの主よ、

さかえ ちから  
栄と力はただ主にあれ、

とこしえまだ。

アーメン。



日本基督教団 六角橋教会

牧 師 加 山 真 路  
牧 師 佐 藤 栄 一

〒221-0802 横浜市神奈川区六角橋1-26-8

電話 045(432)0694

FAX 045(432)0194

郵便振替口座 00250-2-979

(ホームページ) [www.rokkakubashi.org](http://www.rokkakubashi.org)